



6か月ぶりに再開した「ひらたの市」(3面に関連記事)



CONTENTS

- P2** 感染症専門家らコロナ対策チェック
- P4-5** 福ねこコンテスト 受賞作品決定
- P6** のぞみ寮がフォレストでランチ会
- P7** きらぼし★アート展 旭川荘から13点
- P8** 理事会・評議員会報告

旭川荘 だより

vol.

258

2020.11.1 発行

発行/社会福祉法人 旭川荘
〒703-8555 岡山市北区祇園866
TEL 086-275-0131 FAX 086-275-5640
<http://www.asahigawasou.or.jp>



新製品をPRする菓子工房わかばの利用者たち(3面に関連記事)



優しくて強い旭川荘を目指して

理事長 末光 茂

新型コロナウイルスの影響は、各方面に及んでいます。企業の倒産や医療機関の多額の赤字が、新聞で大きく取り上げられています。社会福祉法人も例外ではありません。

「強くなければ生きていけない。優しくなければ生きていく資格がない」(レイモンド・チャンドラー)

社会福祉法人「旭川荘」は60年余り、地域の弱い立場に置かれた方々のために、献身的な努力を続けてきました。優しさの具現化です。

しかし、優しいだけでは法人は永続できません。事業を自立的に運営できるように、経営基盤がしっかりしていなければ、優さを発揮する機会すら持てなくなりかねません。

その点で、旭川荘は創立以来、先人達は大変な苦勞のなかで経営を成り立たせ、発展させてきました。黒字幅は小さいながらも決して倒れない、安定した「強さ」を培ってきました。

ただし近年は、少子高齢化の進行で社会保障費が抑

制され、より緊張感をもった経営が求められつつあります。それに加え、昨今の新型コロナです。旭川荘でも、今年4月から8月までの5カ月間の収入は、昨年比で大幅な減少です。

厳しい状況下にあります。各施設の経営努力によって、現在のところ資金不足には陥っていません。しかし、冬に向けてさらなる感染拡大が懸念されるだけに、楽観は決して許されません。

図らずも今年度から、旭川荘では「経営企画会議」を設置し、財政規律、人事制度、生産性向上などさまざまな観点から、経営を抜本的に見直す作業を開始しました。そのような場も活用しながら、職員が一致団結し、コロナにも決して負けない「強さ」をもった旭川荘を作り上げていかねばなりません。

コロナ禍を苦境だと嘆くのではなく、逆に「強さ」を身に付ける好機と捉え、「優しい旭川荘」を守っていきましょう。

日本環境感染学会の専門家が来荘 新型コロナ対策をチェック

日本環境感染学会の岡山県チームが9月30日、旭川荘を訪問し、旭川敬老園といづみ寮における新型コロナウイルス感染防止対策をチェックするとともに、具体的な改善策について職員と意見交換を行いました。

日本環境感染学会は医療機関の感染制御を専門とする学会で、感染対策の専門医等が常駐していない中小病院および福祉施設を対象として「新型コロナウイルス感染症の院内・施設内感染対策チェックリスト」を今年7月に作成。今回の訪問は、このチェックリストを活用して岡山県内の福祉施設における対策を推進するべく、学会に所属する県内の医師等の専門家(川崎医科大学の尾内一信主任教授、同大学附属病院の平田早苗看護師長、岡山



チェックリストをもとに活発な意見交換が行われた



いづみ寮のゾーニングを確認するチーム一行

大学大学院医歯薬学総合研究科の頼藤貴志教授)と、岡山県・岡山市の職員が合同で実施したものです。

一行は、チェックリストの73項目に沿って両施設の対応状況を確認し、質疑応答を行うとともに、実際に施設内を視察し、感染者が発生した場合の隔離区域の設定(ゾーニング)等を確認しました。旭川荘は各チェック項目には概ね対応できていましたが、食事介助や口腔ケアの際には職員が目の保護具(フェイスシールドやゴーグル)を着用した方がいいことや、感染者が発生した場合の施設内の消毒の方法、障害者の入院の調整、感染者数が増加した場合のゾーニングの方法などについて具体的な指摘があり、職員は質問しながら熱心に聞き入っていました。

ひらたの市 6カ月ぶり再開 地域住民でにぎわう

ひらた旭川荘は、新型コロナウイルスの影響で今年3月から中止にしていた月例のひらたの市を9月17日、感染症対策をした上で再開し、地域の人たちがひと時の買い物を楽しみました。

ひらたの市は2013年11月から、毎月第3木曜日の正午前後に、ひらた旭川荘の敷地内で開催。木立の中に旭川荘の施設や近隣の就労支援施設、地域の人たちがテントを並べ、買い物やランチを楽しむ人たちがでにぎわってきました。新型コロナの感染拡大に伴い開催を見合わせていましたが、地域からの再開を望む声を受け、飲食スペースを設けず買い物みの形で再スタートしました。

新スタイルとなった今回は、通常時は35前後の出店数を19店に減らし、間隔をあけてテントを配置。接客の際にはマスク、フェイスシールドの着用や、客との間にビニールの幕を設置するなどの感染予防を徹底しました。また、来場者にもマスク着用や、検温、体調チェックへの協力をお願いするとともに、人数を制限した上で



来場者は受付を通った印として、シールを胸に貼ってもらい入場する



テントの間隔をあけ、シートを設置して販売

会場に誘導するなど、密にならない工夫をしました。

会場には季節の果物や野菜、パンやお弁当のほか、ハンドメイド雑貨などの店が並び、来場者は思い思いに買い物を楽しんでいました。半年ぶりの開催にもかかわらず、200人を超える来場があり、早々と完売する店や列ができる店もありました。

ひらた旭川荘の田中重行総括施設長は「対策をやりすぎではないかという声もあったが、来場者と出店者が互いに安心して楽しめる空間づくりを心掛けた。今後も改善しながら安全に開催していきたい」と話していました。

新作ボルボローネとマドレーヌ発売 わかば寮 菓子工房わかば

わかば寮の「菓子工房わかば」はこのほど、これまで米粉で作っていたクッキーとマドレーヌをリニューアルし、岡山県産小麦を使った軽い口当たりのスペイン風クッキー「ボルボローネ」と「マドレーヌ」の販売を開始しました。

ボルボローネは丸い一口サイズのクッキー。小麦粉やアーモンドプードルなどを使い、口に入れたときのホロホロとした崩れる食感が特長です。味はきなこ、抹茶、ごま、紅茶、チョコレート、いちごの6種類で、カラフルな色合いも目を引きます。価格は3個入り100円。

マドレーヌは小麦粉のほか、水あめやラム酒を加えてしっとりとした口当たり仕上げました。新たに菓子工房わかばのキャラクター「オープンちゃん」の焼き印を作り、マドレーヌの表面にワンポイントを付けるよう試行錯誤中です。1個120円。



オープンちゃんの焼き印の入ったマドレーヌ

他にも昨年からは販売するココナッツチュールは材料の量はそのまま、一回り小ぶり(直径6cm)にして厚みを出し、崩れにくく改良。パッケージも3枚入り150円を2枚

入り100円に変え、手軽に購入できるようにしました。さらに人気商品のおからスティックの生地を長方形(縦3cm横2cm)に成形して、クラッカー風にした新商品も現在開発中です。

わかば寮の上原利恵副寮長は「100円程度の価格で、手軽に食べてもらえる焼き菓子を目指している。職員らの工夫とアイデアでよりおいしい商品ができたので、多くの人に味わってもらいたい」と話します。問い合わせはわかば寮(086-805-3804)。



新作ボルボローネ(中央)とマドレーヌ(右)。ココナッツチュール(左)も改良

コロナに負けない!



福ねこ絵付けプロジェクト

コンテストに352点 受賞作品決定 職員と利用者「楽しみ」分かち合う

新型コロナウイルス感染症の早期終息を願い、旭川荘で8月にスタートした「コロナに負けない!福ねこ絵付けプロジェクト」。職員と利用者が素焼きの招き猫の絵付けを楽しみ、みんなの投票で選ぶ「福ねこコンテスト」にはオリジナリティーあふれる352点の作品が集まりました。主催者による開票・審査の結果、計8点の受賞作品を決定。今後は「岡山・上海障害児者絵画交流展」(11月24日~29日、岡山県天神山文化プラザ)で全ての作品を展示し、いくつかの支部で巡回展を行う予定です。

コロナ禍で自粛生活が続く中、職員と利用者が共通のテーマで「創作する楽しみ」「観賞する楽しみ」「投票に参加する楽しみ」を分かち合った今回のプロジェクト。これまでの活動を紹介します。

各施設で絵付け (8月)

福ねこ制作には荘内21施設の職員と利用者が参加。招き猫美術館(岡山市北区金山寺)オリジナルの白い招き猫の土台に絵の具などを使って色を重ね、独創的な作品を仕上げました。



かえで寮



せとうち旭川荘



たかはし松風寮



ひだまり苑



彩色だけでなくビーズや付けまつげで飾った福ねこも!



素焼きの福ねこは破損防止のため
一点ずつケースに収納



ケースは牛乳パックを再利用して
吉備ワークホームで作製



一次審査 (9月14日)

応募のあった福ねこ352点を並べて、コンテストの投票対象となる113点を選びました。カラフルな色彩と豊かな表情の“世界に一つだけの福ねこ”たち。全部が並んだ姿は見ごたえがあります。



後ろ姿にも注目!

ウェブで開催 福ねこコンテスト (9月28日~10月9日)

製品サイト「ぎおんの杜から」(<http://asahigawasou.com/>)に一次審査を通過した113点を掲載し、コンテストを実施。旭川資料館には全作品を並べて、実物を見て投票できるようにしました。



トップページのバナーからコンテストページへ



実物を資料館に展示

受賞作品決定

「福ねこコンテスト」には庄内関係者と資料館来館者を合わせ541人の投票があり、開票・審査の結果、以下の作品が選ばれました。

福ねこ投票 利用者の部



👑 金賞(1位) 48票
「福招き猫」
宮本休子さん
(旭川敬老園)



👑 銀賞(2位) 34票
「ふく猫」
永井佐代さん
(いんべ通園センター)



👑 銅賞(3位) 29票
「悲しいなあ…。明るい未来にねこ」
谷口宏美さん
(かわかみ療護園)

福ねこ投票 職員の部



👑 金賞(1位) 29票
「紫陽花ねこ」
宮本真理子さん
(ひだまり苑)



👑 銀賞(2位) 28票
「みんなでいっしょに」
濱田真菜さん
(カレッジ旭川荘)



👑 銅賞(3位) 27票
「カラフルアマビエ」
山崎太美子さん
(あおば)

特別賞



理事長特別賞



「ちゃぐちゃぐねこ」
阿部はるみさん
(吉備ワークホーム利用者)



新型コロナウイルス
肺炎対策本部長特別賞



「アマビエねこ」
中村友美さん
(旭川乳児院職員)

フォレストでちょっと外食気分 のぞみ寮利用者がランチ楽しむ

新型コロナウイルスの影響で外出制限が続く中、のぞみ寮がひらた旭川荘の交流スペース「つどいのばフォレスト」で飲食店の持ち帰り料理を楽しむランチ会を企画。カフェ風にしつらえたお洒落な空間で、利用者が久々の“外食気分”を満喫しました。

のぞみ寮では例年の施設の行事として、各利用者が年に1回、昼ごはんを食べに飲食店に出掛ける「ランチ外出」を実施していました。しかし本年度は新型コロナのため、春のお花見や夏の盆踊り大会などの恒例行事も全て中止になり、ランチ外出も見合わせざるを得ない状況となっていました。

「少しでも外食の気分を味わってほしい」と職員が着目したのが、今春完成した「つどいのばフォレスト」の活用。希望する利用者には寮から200メートルほど離れたフォレストへ



豪華なうな重の前に笑顔

出かけてもらい、前もってオーダーした飲食店の持ち帰り料理を提供。慣れた場所でゆっくり食事をした人には、寮の食堂で味わってもらうことにしました。

9月25日から12月1日まで、焼肉店の特製丼や

洋風弁当、ハンバーガー、寿司など計7回のランチ会を計画。入所の利用者40人と継続的に通所している利用者7人に、いずれか1回参加してもらい、料理代として1人1500円を施設で補助します。取材に訪れた10月6日は、3人の男性利用者がフォレストのランチ会に参加。うなぎ1匹分の蒲焼が載った豪華なうな重を堪能しました。西田豊さんは「うなぎもご飯も温かく、とても美味しい。(フォレストでの食事は)気分も変わっていいですね」と笑顔を見せていました。



香ばしいうなぎのにおいに食欲をそそられます



フォレストでランチ。テーブルや棚に小物を飾りランチの場をお洒落に

いんべ通園 オンライン交流会

いんべ通園センターは9月2日、昨年からの施設間交流を実施している特別養護老人ホームせとうち(瀬戸内市邑久町福中)とオンラインを使った交流会を開催しました。

昨年はせとうちの利用者がいんべ通園センターを訪れ、せとうちの職員のマジックショーと一緒に楽しみましたが、今年は新型コロナウイルス感染症対策のため直接の交流を断念。しかし双方の「コロナ禍であっても交流を続けていきたい」という思いからウェブ会議ツール「Zoom」を利用したオンライン交流を企画しました。

いんべ通園センター側の会場となった食堂には、利用



腹話術でコロナ対策について学んだ

者が集まり、スクリーン越しにせとうちの利用者らと久々の再会。せとうちの職員による腹話術では救急隊員の恰好をした人形の「しょうちゃん」と看護師役の職員がコロナ対策にまつわる話を面白おかしく披露しました。「しょうちゃん」の呼びかけにいんべ通園センターの利用者が「はい」と答える場面もあり、コミカルな動きと会話に笑いがおきました。また、互いの活動紹介も行われ、いんべ通園センターではマスクストラップやアクリルたわしを制作していることを伝えました。



交流を楽しむ利用者たち

いんべ通園センターの長寿厚志所長は「利用者が他施設とのイベントに参加する際には移動がネックになるが、リモートだとこうした課題はクリアできる。今後もICTを活用しながら交流し、コロナが収まれば手と手を取り合った交流も再開したい」と話します。

加計美術館できらぼし★アート展 旭川荘利用者の13点も展示

岡山県内の障害のある人たちの芸術作品を集めた「きらぼし★アート展」が10月10日から31日まで、加計美術館（倉敷市中央）で開催されました。旭川荘の利用者が制作した13点の作品も会場に並び、来場者の注目を集めました。

4回目の開催となる今年は、絵画、造形、写真の各部門に計298点の応募があり、一次選考を通過した計81点（絵画50点、造形16点、写真15点）を展示。旭川荘からは絵画9点、造形3点、写真1点が選ばれ、吉田智喜さん（いづみ寮）のたぬきの陶芸作品が造形賞に、足元に置いたカメラで車いすに乗った自身と青空を撮影した笠原啓司さん（かわかみ療護園）の作品が写真賞に輝きました。



デイセンターあかしやの合作「猛暑の夏にブルーひまわりをどうぞ。」。個性あふれるたくさんのひまわりに来場者もくぎ付け



造形賞に選ばれた吉田智喜さんの作品「たぬき」



写真賞に選ばれた笠原啓司さんの作品「のんきな夏の日」



（左手前から）山本克己さん（いんべ通園センター）の「燃ゆる紅葉」、渡辺充雄さん（デイセンターあかしや）の「僕のスタイル 白字バージョン」

リレーコラム

あの山の上へ

おにがじょう

鬼ヶ城山系トレッキング

旭川荘南愛媛病院の窓から南に見える高く美しい山々。高月山（標高1229m）を最高峰に、三本杭（1226m）、鬼北町の名前の由来となっている鬼ヶ城山（1151m）…と四国百名山に選ばれる山々が10座以上連なっています。これらは鬼ヶ城山系、別名で南予アルプスと呼ばれていて、季節毎にさまざまな表情を見せてくれます。



鬼ヶ城山の山頂付近まで舗装された林道が整備されており、そこから鬼ヶ城山系の山々にアタックすることができます。9月22日は山頂に近い公園の駐車場に車を停め、鬼ヶ城山を経て大久保山（1158m）に至るコースを歩くことにしました。山道には所々に看板が設置して

鬼ヶ城山から大久保山へ向かう山道。気持ちのよいカエデ林が広がる



大久保山山頂からの眺め。宇和海の向こう側に九州が見える

あるため、初心者の私でも安心して頂上を目指せるようになっています。少し斜面はありますが、ブナの原生林やカエデ林が続き気持ちのよいトレッキングが楽しめました。

登山口から30分かけてたどり着いた鬼ヶ城山の山頂は木々に覆われていて、眺望はあまり良くありませんでした。しかし、大久保山では360°パノラマが広がっていて、東方には四国カルストが望め、西の方は宇和海の島々や遠く九州の山々まで見渡すことができました。

普段、職場から見上げていた山の上には、美しい自然があり、心に残る景色が広がっていました。コロナ禍で行動が制限されているなか、身近な自然の中で過ごすのも良い発見があるかもしれません。（広報委員 佐竹勇樹）

岡山ロボケアセンターから マスクの寄贈

岡山ロボケアセンター株式会社(倉敷市幸町)より9月1日、旭川荘療育・医療センターに不織布マスク2,000枚を寄贈していただきました。

同社は、旭川荘で使用している介護ロボットスーツ「HAL」の納入やメンテナンスを担当しているほか、昨年から障害児のリハビリにHALを活用する方策について療育・医療センターと研究を進めています。そうした中で、中国の関連企業から贈られたマスクの一部を旭川荘に寄贈して下さることになりました。

この日旭川荘を訪問した同社の向谷隆代表取締役は「現場で頑張っている職員の皆様に使っていただきたい」とあいさつ。

療育・医療センターの藤堂博之院長代理は「毎日大量のマスクを消費するので大変助かります」と感謝の言葉を述べました。



マスクを寄贈する向谷代表取締役(右)

ライオンズクラブより タオルの寄贈

岡山ひかりライオンズクラブ(LC)など5団体から10月13日、タオル3,840枚を寄贈していただきました。今回で13回目となります。

タオル寄贈は2009年に岡山ひかりLCが始め、2回目以降は岡山操山LC、岡山京山LC、岡山中央LCも参加。2016年からは岡山せとうちLCも加わり5LCで継続しています。

旭川荘資料館で行われた贈呈式には各LCの代表7名が参加し、末光茂理事長に目録を手渡しました。末光理事長は「コロナ禍にも関わらず、毎年の支援を続けていただき心より感謝いたします」とお礼を述べました。

いただいたタオルは本部のある祇園地区をはじめ、備前、備中、ひらた支部の24施設へ配布し使用させていただきます。



末光理事長(中央)にタオルを寄贈するLCの皆さん

旭川荘理事会・評議員会報告

令和2年10月開催予定の理事会・評議員会については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、書面開催をしました。

第3回理事会では、令和2年度主要事業の状況、定款の一部変更、役員人事、主要人事など6件の議案について、理事及び監事全員の同意等により、原案どおり承認されました。

また、第2回評議員会では、令和2年度主要事業の状況、定款の一部変更の議案について、評議員全員の同意を得て、原案どおり承認されました。

なお、以下のとおり、役員人事に異動がありましたのでご報告いたします(敬称略)。

【異動】(令和2年10月10日付)

常務理事 神崎 晋
常務理事 新井 禎彦
常務理事 秋山 哲生



旭川荘ごよみ SCHEDULE CALENDAR

11月

- 10日 旭川荘創立記念式典(永年勤続表彰式) 旭川荘
- 16日 アートギャラリー展表彰式 アートギャラリー
- 24日~29日 岡山・上海障害児者絵画交流展(岡山県天神山文化プラザ) 旭川荘
- ☆ 秋祭り・日帰り旅行 ~各施設

12月

- 1日~2月24日 第11回旭川荘アートギャラリー展 アートギャラリー
- 3日~4日 旭川荘医療福祉学会 旭川荘
- ☆ クリスマス会・餅つき ~各施設

編集後記

今号4・5面で紹介した「福ねこ絵付けプロジェクト」。主催者側として、福ねこたちを撮影する機会に恵まれました。撮っていて「面白い!」と思ったのが、その後ろ姿。前面からは想像できないような彩色だったり、お尻にワンポイントの絵が描かれていたり、コロナの終息を願うメッセージが隠れていたり…。土台そのものの、ちょっと力の抜けた感じの形状も可愛らしく、見ていて癒されます。11月の岡山・上海障害児者絵画交流展、荘内で開催予定の巡回展では、福ねこたちの後ろ姿にもぜひ注目してください。

(広報委員 難波久江)